

令和4年度 第3回 中瀬小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年2月17日(金) 10時00分から12時00分まで
- 2 開催場所 中瀬小学校 会議室
- 3 出席委員 山本 忠雄、山下 勝康、村上 雅代、舟橋 弘子、  
鈴木 英之、鈴木 康弘、田中 弥生
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 小杉 幸次（中瀬協働センター）
- 6 学校支援コーディネーター 田中 弥生
- 7 学 校 宮崎 秀樹（校長）、原 欣嗣（教頭）、平野 将太郎（CS担当教職員）、  
富永 幸代（CSディレクター）
- 8 教育委員会 堀田 洋一（教育総務課）
- 9 傍聴者 なし
- 10 協議事項
  - (1) 議長の選出について
  - (2) 令和4年度全国学力調査・学習状況調査の結果について
  - (3) 学校評価の結果について
  - (4) 学校運営協議会の1年間の取組について【自己評価】
  - (5) 次年度の学校経営方針・教育活動について
- 11 会議録作成者 CSディレクター 富永 幸代
- 12 会議記録

司会の平野(CS担当職員)から、委員全員の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 議長の選出について

司会から、山本委員を議長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

(2) 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

議長の指示により、平野主幹教諭から別紙資料に基づき、6年生の児童を対象に行った令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について説明があり、委員から以下の発言があった。

- ・国語科の話し合う活動については、グラドルールを決めるのはどうか。話し合いの前に、相手の話に対して反対意見は言わないといったようなルール決めをする。そうすることによって自分の意見を述べやすくなると思う。(康宏委員)
- ・グラドルールを決めることは大事だと思う。人が話すときに意見を聞く姿勢が大切。これは、いじめ撲滅にも繋がると思う。聞く姿勢ができていないと、無視されているという雰囲気が出る。そうすると人は安心して発表できない。安心し

た学校生活に繋がることが表現力を育てていくことにもなると思う。(英之委員)

→児童の中には、話の仕方がわからない・否定されるのが嫌なので発言できないという子供がいる。学年に合わせた話し合いの形・発表の仕方があると思うので、まずは「話し合い方」の指導から進めていきたい。(平野主幹教諭)

- ・保護者が集まる場所で、子供の学力を高めたいということを伝えるとよいのでは。家庭内でも日々の中の意識に繋がられるのではないかと思う。保護者には手紙やメールではなく、できれば言葉で伝えてほしい。(康宏委員)
- ・保護者に伝える場として懇談会があるが、一年に一回程度は全員参加の懇談会があるとよいのでは。お互いの親の顔を知らない子供同士何かあった時に困ると思うので、一度は顔を合わせることは良いと思う。(田中委員)
- ・6年生でどれだけ力を発揮できるかというのは、低学年からの積み重ねの指導が大事だと思う。算数科などに関しても生活経験が大切で、そこからの気付きがあると思う。実体験の授業で想像力を養うことが大事だと思う。(村上委員)

### (3) 学校評価の結果について

議長の指示により、平野主幹教諭から別紙資料に基づき、学校評価の結果からみえた子供たちの挨拶改善に向けての説明があり、委員から以下の発言があった。

→子供たちへの挨拶指導では、「相手に届く声で」・「相手の顔を見て」・「自分から先に」・「挨拶できないなら会釈する」といった声掛けをしている。校内では改善されてきている。(平野主幹教諭)

- ・地域生活の中で、子供たちは挨拶ができていないと思うことはあるが、その印象が変わってくればよいと思う。(英之委員)
- ・地域行事開催後、途端に子供たちは挨拶をしてくれるようになる。地域行事の重要性を感じる。(山本委員)
- ・他の学校にも行くことがあり感じることは、先生すら挨拶してくれない学校があるということ。まずは先生方も含める校内から挨拶をしていくことが大事だと思う。(舟橋委員)
- ・障害児童と関わることがあるが、その子供たちとは目を合わせて挨拶をすることが大事である。そうすることにより相手に不信感をもたせず安心感を与えられる。(山下委員)

### (4) 学校運営協議会の1年間の取組について【自己評価】

議長の指示により、各委員から令和4年度学校運営協議会の1年間の取組に対する自己評価について以下の発言があった。

- ・運営方針はなんとなく分かったが、地域の応援団という立場でどのように関わればよいか、どこまで意見を言えるのか立ち位置がわからない部分があった。(村上委員)
- ・自分たちがもっと学校活動を見ていかないと分からない部分がある。(舟橋委員)
- ・評議員と運営委員の違いが分からなかったが、より踏み込んで学校運営に携わっていけるのが運営委員なのだった。コロナ禍であることと初年度ということがあり、今年度は踏み込むまでは難しかった。(田中委員)
- ・中瀬小学校のグランドデザインは良いと思った。学校運営委員会の位置付けとし

ては、今までの延長ではなく、より強い権限をもっているのだと感じた。学校だけではなく保護者や地域の人と一緒に、特色ある学校運営を話し合っていきたいと思う。(康宏委員)

- ・「学校運営の基本方針」を自分たちが熟議するのかと思った。また「熟議」とは何を求めているのか疑問に思ったり不安に思ったりした。(舟橋委員)
- ・会社に置き換えて言うと、働く人が一番幸せな組織・エネルギーを持って働ける場というのを考えることが大事。経営理念をみんなで作り、格差関係なく意見を言い合い、みんなで決めたことに対して力を合わせていく。学校でも、職員を含めてみんなで話し合うことで、地域も学校も共に成長していけるのではないかと思う。社会に役立つ人になるために、どういうことをやるかを考えることが大切だと思う。(康宏委員)
- ・色々なタイプの子供がいるので、学校では会社と同じようにはいかないことがある。みんなと同じことができる子もいれば、個性として伸びる子もいるということを考えていきたい。(舟橋委員)
- ・無駄なことかも知れないと思うことをやっていく中で、後になって必要なもの・必要でないもの・自分の中に残すものを子供たちは見付けていくのだと思う。子供はもっと生身の人同士での関わりをもってほしいと思う。(村上委員)

#### (5) 次年度の学校経営方針・教育活動について

議長の指示により、校長及び平野主幹教諭から別紙資料に基づき、次年度の学校経営方針・教育活動について説明があり、委員から以下の発言があった。

- ・教科担任制に関しては、今までなかった教育の形なのでこれからも見守っていきたい。(山本委員)
- ・教科担任制は良いと思った反面、中瀬小独自のものなのか、そしてそれは継続されてゆくものなのか疑問に思った。(村上委員)

→浜松市では100%で高学年教科担任制を導入している。国(文科省)からも推進されているので今後も続いていく。課題としては、担任の先生がいなくて不安になる子供がいるということ。これは自分で何とかするより先生に頼る気持ちが強いということである。負担に思う子はいるが自立するしかない。「強さ」「あたたかさ」の強化を目指し、周りの人と協働しながら生活していく子供に育てていきたいと思う。(校長)

- ・小学校高学年から教科担任制を始めれば、中学校に向けて準備ができるので良いと思う。これからも継続されると聞いて安心した。(田中委員)

#### ☆その他の連絡事項☆

司会から、令和5年度の会議は、【第1回：令和5年5月12日(金)】・【第2回：令和5年12月13日(水)】・【第3回：令和6年2月16日(金)】の予定で開催する旨の連絡があった。